

# 牛久：学校周辺に見る自然

第33号 稲敷市民農園

2011年8月11日発行

## < 畑仕事のあいまに ～ 2. ホウセンカをのぞいてみたら… >

市民農園<sup>のうえん</sup>での観察、今回はホウセンカに目を向けてみました。



ホウセンカの花蜜をなめるクロヤマアリ



花の中で、何かが動きまわっていました。のぞいてみると…、アリです。クロヤマアリが花の奥にある蜜<sup>みつ</sup>を盛<sup>さかん</sup>んになめていました。ホウセンカはハナバチ<sup>なかま</sup>の仲間が花粉を運ぶ<sup>かふん</sup>と言われますが、アリの体には花粉はほとんどついてなく、蜜をとるだけのようです。



ホウセンカの蜜腺から蜜をなめとるアミメアリ

ところが、よく見ると茎にも葉にもたくさんアリがいます。こちらはアミメアリ。葉のつけ根<sup>くき</sup>の蜜腺<sup>みつせん</sup>と呼ばれる部分から出る蜜をなめていたのです。アブラムシのいる茎もありましたが、アリはそれを追い払っていました。蜜腺の蜜の方がよかったですでしょう。ホウセンカはアリに蜜をとられるだけでなく、そのおかげで葉を食べる害虫から身を守ってもらえるのです。



ホウセンカの葉の裏で翅を休めるモンキチョウのメス

他のホウセンカに目を向けると、モンキチョウが葉の裏にじっととまっていた。さっきまで近くを飛びまわっていたチョウだと思いましたが、翅<sup>はね</sup>も少したんで、疲れたようすにみえたのは気のせいでしょうか。オスはもっと黄色が強く、メスはふつう写真のように白っぽい感じですが、黄色くてオスと区別つかないものもいます。幼虫<sup>ようちゅう</sup>は、シロツメクサなどマメ科植物の葉を食べます。

【理科支援員 宮内】